

ある韓国人ラジオパーソナリティの誤用が 意味するもの

—日本語教育への提言—

今 井 洋 子

要 旨

本稿は、韓国の文化・情報を提供するラジオ番組で、パーソナリティ（進行役）を務める韓国語母語話者の発話に見られる誤用の特徴と原因を明らかにし、日本語教育に有益な提言を行うことを目的とするものである。約1年間の発話を収集し、誤用を抽出・考察を試みた結果、文法・語彙ともに、母語の影響を受けていると考えられるものが多いことがわかった。文法においては、条件形の「ば」の多用、連体形において名詞をナ形容詞とする誤り、自動詞の「漢語+する」を受身形で表す誤りが顕著に見られた。また、語彙においては、韓国語を直訳したと思われる名詞と動詞の共起関係における誤用が多かった。このことから、日韓対照言語学研究で得られた成果を反映した韓国語母語話者に対する教材開発の必要性和、共起表現に着目した語彙・文法指導の有効性を提案する。

キーワード：誤用、母語の影響、条件形、受身形、共起表現

1. はじめに

外国語の習得過程において現れる誤用は、母語や既習外国語の影響、学習不足や過剰一般化などにその原因があり、誤用分析が習得過程の解明につながるとされている。これまでの習得研究には韓国語母語話者を対象としたものも多いが、初中級レベルの学習者に対する助詞や指示詞、自他動詞などの文法項目に関し、正誤問題や選択問題、空欄補充問題などの文法性判断テストによる横断的調査を行うものが中心であった（迫田 2002 等）。それらの調査から、習得の難易や習得順序、母語の影響による転移の可能性などが明らかにされてきた。また、近年、日本語を対象とした語彙習得に注目が集まり研究も始まっているが、語の産出よりも受容を中心とした研究が多く（加藤 2005 等）、韓国語母語話者を対象としたものはまだ数少ない（梁 2005 等）。

そこで、本稿では上級レベルに該当する韓国語母語話者の約1年間の発話を収集、そこに現れる誤用を抽出してその特徴と原因を明らかにし、日本語教育において韓国語母語話者に対する有益な材料を提供することを目的に調査・分析を行った。

2. 調査方法

韓国の文化・情報を提供するラジオ番組で、パーソナリティ（進行役）を務めるある韓国語母語話者の発話に現れる誤用を収集した。期間は2006年1月3日から2007年2月20日まで、週1回60分の放送で全54回分である。個人情報保護のため、パーソナリティの学習履歴については明らかにされていないが、長年にわたり公共放送でレポーターを務め数々の司会も担当していることなどから、相当の日本語力を有していると考えられるため上級レベルに該当すると判断した。番組は大半が日本語で進行され、ゲストを招いたインタビューやリスナーからのリクエスト特集など特別編成枠でない限り、発話時間はほぼ一定である。

3. 調査結果と考察

3-1 誤用の量的分析

各回の誤用数を図1に、文法の誤用数とその内訳を表1に、語彙の誤用数とその内訳を表2に示した。表1、表2の上段は誤用数、中段は母語の影響を受けていると考えられる誤用数、下段はその割合を%で示している。ここで言う母語の影響を受けていると考えられる誤用と

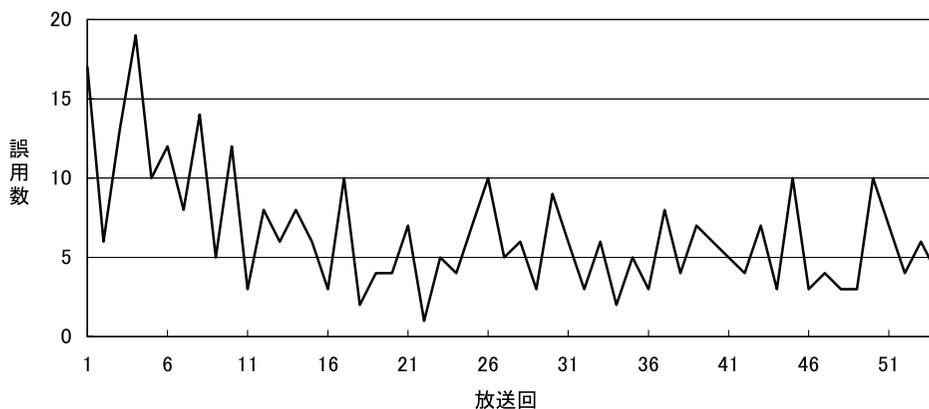


図1 各回誤用数

表1 文法項目の誤用数

	ta	teiru	自他	受身	使役	可能	条件	敬語	助詞	接続	活用	ねじ	計
数	3	13	14	15	3	11	9	9	34	18	29	9	167
母語	0	8	8	13	0	7	7	3	18	9	11	3	87
割合	0	61.5	57.1	86.7	0	63.6	77.7	33.3	52.9	50.0	37.9	33.3	52.1

* taはタ形, teiruはテイル形, 自他は自他動詞, ねじは文のねじれを指す

表2 語彙の誤用数

	読み	重複	共起	類義	接辞	不自	取り	計
数	7	7	75	30	14	35	15	183
母語	3	1	54	19	5	14	1	97
割合	42.9	0.1	72.0	63.3	35.7	40.0	0.7	53.0

* 不自は不自然, 取りは取り違えを指す

は、母語の文法・語彙知識をそのまま用いたり、母語を直訳したために生じたと思われる誤用を指す。音韻面については今回の分析の対象から外し、文法と語彙に限った。文法は日本語教材で一般的に用いられている項目に従って分類し、語彙は誤り全体を俯瞰し、共通性のあるものごとにグループに分けた。語彙の誤用の中には、不自然な表現であっても必ずしも誤りとは言えないものもあり、正用か誤用かの判定には詳細な考察が必要であるが、日本語母語話者2名の判定も踏まえた上で、不自然な表現であれば誤用とするという視点に立った。

各回の誤用数は、最も多いのが19、最も少ないのが1である。11以上あるのは調査開始から10回目までに集中しており、それ以降は10が分散して4回あるものの、全体的には5前後とほぼ一定であると言える。誤用の内訳を見ると、文法・語彙ともに、母語の影響を受けていると考えられる誤用が全体の約半数を占めており、特に文法では「受身表現」と「条件表現」に、語彙では「共起表現」と「類義語」にその割合が高い。紙幅の関係上、すべての項目を取り上げることができないため、ここでは項目別に誤用を一つずつ挙げるにとどめ、母語の影響を受けていると考えられる誤用が半数を越えているものを中心に、特徴ある項目については次節で詳しく見ることにする。

〈文法〉

【タ形】先週の土曜日は立春ですよね。

【テイル形】すぐお目にかかれると思いますが、待ってください。

【自他動詞】始まって間もないんですが、ゴルフにはまっています。

【受身】このツアーが実現されたそうです。

【使役】日本の方たちをビックリしてあげたいと思った…

【可能】いいプレゼントになれるよう曲を作りました。

【条件】休日になれば映画を見るそうです。

【敬語】韓国旅行、ご満足いたしましたか。

【助詞】ずらりと列がなしていたんです。

【接続】テレビゲームを楽しむ方を（→の楽しみ方を）…

【活用】愛しています=サランヘヨ、その一言に尽きります。

【ねじれ】グループの立ち位置が真ん中に立っています。

〈語彙〉

【読み方】 ハーフの音が出る水槽ができました。

【重複】 灯りを点灯します。

【共起】 デビュー前から話題を浴びています。

【類義語】 自分のホームランや打率なんかの希望よりは…

【接辞】 音楽が大人の雰囲気を出さねばならなかった…

【不自然】 子どものときの女性というのは…

【取り違え】 何か情熱が傾けられる人はその矛先が違って…

3-2 文法項目の誤用の質的分析

韓国語は文法体系において日本語と類似していることが知られており、語順が全く同じで意味機能が共通する助詞が存在することなど、その類似性が正の転移となり日本語習得に役立っていることは否定できない。しかしながら、その類似性ばかりが強調されるとむしろ習得を妨げることにもなりかねず、相違点に目を向けることが習得の一助となることもありうる。ここでは日本語との相違点、つまり、韓国語の文法知識をそのまま使用し誤用となったと考えられる割合の高い項目を見ていく。

3-2-1 テイル形

アスペクトの表現形式であるル形とテイル形は、韓国語にもそれぞれに相当する形式が存在する。テイル形の表すいわゆる進行相は「-고 있다」で表され、この進行相の誤りもいくつか見られるが、それよりも結果状態の存続を表すテイル形「-아/어 있다」を直訳したと思われる誤りがより多く現れている。

- 1 すぐお目にかかれると思いますが、待ってください。기다려 주세요.
- 2 一番に記憶に残るのはとっても寒かったってことです。가장 기억에 남는 것은…
- 3 許されていない愛だったんです。허락되지 않은 사랑이었어요.

1は進行相のテイル、2は結果状態の存続を表すテイルを用いるべきであるが、韓国語では両者ともそれに相当する文法形式で表されないため、そのまま直訳し誤ったものと思われる。3はタ形にあたる過去形で表現されるために生じた誤りと考えられる。直訳すると過去否定形の「*許されなかった愛」となるところを、未完了の「(まだ) ~ていない」という文法知識を用いたのか「*許されていない愛」と訳しているが、テイル形が期待されるところに現れず、不要なところで使用されていることがわかる。

また、テイル形とテアル形の対立についても誤りが見られ、これはすべてテイルとすべきところをテアルと誤ったものである。

- 1 私が小さいときから (これは) 翻訳されてあったんですが、… 번역되어 있었는데…
- 2 格言などが盛り込まれてある… 격언등이 답아 있는…

- 3 祝祭日が平日に並んであっていいですね。공휴일이 평일에 잇따라서 좋네요.
- 4 先行予約, 受け付けてあります。선행 예약을 받고 있어요.
- 5 ライブが控えてあります。라이브가 앞두고 있어요.

1から3は、結果状態の存続を表すテイル形をテアル形とし、4、5は韓国語においても進行相のテイル形で表せばよいところにテアル形を用いてしまっている。韓国語にはテアル形に相当する、動作者を問題にせず動作結果が残っていることを表す文法形式が存在しない。それでテアルの意味に該当する「놓다(置く)」という動詞を用いた「-아/어 놓다」もしくは「-아/어 놓고 있다」という形式で表すが、これらはまさにテオク形と一致するものであるためテアル形との区別が曖昧になり、両者を訳し分けることが困難になる。韓国語に「ある」「いる」の区別がないこともテイル形とテアル形の使い分けを難しくさせているところに、テオク形の訳し分けまでが関わってくるため、結果状態の存続を表すテイル形・テアル形の習得がかなり困難であることを示している。表出がより難しいテアル形の方に意識が働くためか、誤りはすべてテイル形をテアル形とするものであり、また、進行相のテイル形にまでテアル形を用いる過剰使用がうかがえる。なお、テイル・テアル形に関わる誤りは、2006年1月3日から2007年1月23日まで1年間にわたって出現している。

3-2-2 自他動詞

自他動詞、特に語幹を共有する形態的な対をもつ自他動詞はその使い分けが難しいとされているが、今回の調査でも2006年1月3日から2007年2月20日まで誤りが現れている。他動詞で表すべきところに自動詞を用いた誤りは8例、自動詞とすべきところに他動詞を用いた誤りは6例である。

- 1 始まって間もないんですが、ゴルフにはまって… 시작한 지 얼마 되지 않은데…
- 2 HPに直接つながってもいいのですが、… 홈페이지에 직접 연결해도 되는데…
- 3 一生懸命嘴を動いて努力するという意味なんです。부리를 움직여서 노력한다는…
- 4 秋冬春に向けて季節に合って聞けるように… 계절에 맞게 들을 수 있게…
- 5 続けて皆さんにお届けする曲は… 계속해서 여러분들께 소개해 드리는 곡은…
- 6 いつかは夢が叶えるそういうメッセージを… 꿈을 이룰 수 있다는 메시지를…

1から4は他動詞で表すべきところを自動詞で、5、6は自動詞で表すべきところを他動詞で表した誤りである。先行する助詞が自他動詞の使い分けの目安となることも多いが、1、5のように文頭に位置してその手がかりがないこと、2、4のように先行する助詞が二格の場合は自他動詞の使い分けの決め手にならないこと、3のように韓国語では自他同一語「움직이다(動く/動かす)」である場合は選択が困難なこと、6のように「夢が叶う」または「夢が/夢を叶えられる」とすべきところを、可能形を用いようとしたために混同したことなど誤用となった原因は多岐にわたる。韓国語にも対のある自他動詞は存在しその概念自体の理解はさほど難しくないとと思われるが、それぞれの対のどちらが自動詞または他動詞であるかを区別するとい

うことは、文法的な側面だけではなく独立した語として機能するという語彙的な側面からの選択も行うことになり、表現しようとする文においてどちらを用いるのかという判断を瞬時に下すのはかなり困難なことであると言えよう。自他動詞の選択は、構文上の制約で決まっている場合と、談話の流れの中で視点が決まり、それにふさわしい主語が決まることによって選択される場合とが考えられる。正しい理解と運用のためには、どのような制約が出てくるのか、省略された主語が何でありそれに合うのは自他動詞のどちらになるのかといった知識までが必要となるであろう。

3-2-3 受身表現

日本語では「～(ら)れる」という形式で表される受身表現が、韓国語では接尾辞「이・히・리・기」をつける、補助動詞「-아/어지다」を用いる、「漢語+하다(漢語+する)」を「漢語+되다(漢語+される)」にかえるなど複数あり一定ではない。今回現れた誤用の大半は「漢語+되다(漢語+される)」のタイプである。

- 1 肌が一番露出されているジャケットに… 피부가 가장 노출되어 있는 재킷에…
- 2 これは日本でも普及されているんですが、… 이것은 일본에서도 보급되어 있는데…
- 3 現代と伝統が調和された作品で、… 현대와 전통이 조화된 작품이고…
- 4 人気が集中されてきましたね. 인기가 집중되어 있었지요.
- 5 有名な俳優が出演される映画が… 배우가 출연하는 영화가…
- 6 つらいことや挫折に直面されるんです. 힘든 일이나 좌절에 직면해요.

これらはすべて「漢語+する」で表される自動詞を受身形にしたための誤りである。「발견하다(発見する)」に対応する「발견되다(発見される)」の形式をそのまま持ち込んだために起こったものであるが、「하다=する」「되다=される」という単純な等式だけでは正用にならない対があることを意識していない学習者は意外と多い。韓国語の自動詞の漢語動詞の中には、状況に応じて하다形と되다形の両方を取りうるものがあり、話者の動作・状態に対する観点の差異によってその使い分けが決定されるため、その動作自体が能動である되다形の漢語動詞にも安易に「되다=される」と表現してしまう場合が多い。柴(1986)に詳しいが、「보급되다(普及する)」と「보급하다(普及させる)」の対が示すように、日本語の「漢語+する」が自動詞でしか用いられない場合の「되다」は「される」と訳してはならないことを知ってさえいればこの誤りを防ぐことができるものと思われる。スル形とサレル形の使い分けはそれが自動詞であるか他動詞であるかということと密接な関係があるため、漢語動詞の自他の区別をその都度辞書で確認することが必要となるであろう。また、5, 6のように韓国語と同様に「漢語+する」で表すべきところにまで受身形を用いた誤りも見られ、自動詞の「漢語+する」を受身形で表す過剰使用が起こっていることも考えられる。なお、受身の誤りも1年を通して出現している。

3-2-4 可能表現

可能形にすべきところをしなかった誤りは1例のみで、残りは可能形にする必要のない語を

可能形にした誤りと、「見られる」とすべきところに「見える」を用いた誤りである。

- 1 いろいろな仕事ができうるなって思います。여러가지 일을 할 수 있구나 해요.
- 2 言葉一つで待遇が180度変わることもできるので、… 대우가 180도 변할 수 있어서…
- 3 いいプレゼントになれるよう曲を作りました。좋은 선물이 될 수 있도록 곡을…
- 4 アメリカでも通用できる踊りです。미국에서도 통할 수 있는 춤이에요.
- 5 声帯模写を披露してお茶目な姿も見える5人組。애교가 있는 모습도 보이는 오인조.

1は二重の可能表現をとっているための誤りであるが、うっかりした間違い(lapse)によるものと思われる一方、「連用形+うる」というやや高度な表現を用いようとして失敗した可能性も考えられる。2, 3は可能表現にはなりえない無意志動詞を可能形にし、4は既に可能の意味を有する動詞をさらに可能形にしたことによる誤りであるが、これらはすべて韓国語では可能表現「ㄷ/을 수 있다」で表されるため、そのまま訳したものと思われる。また、5では知覚動詞の「見える」と「見る」の可能形「見られる」の混同が生じているが、これも韓国語を直訳したものと見られ頻繁に出現している。韓国語にも「보이다(見える)」と「볼 수 있다(見られる)」の両者が存在するが、「보이다」は「目に映る」「視界に入る」だけではなく「見ることができると」という意味も有し、「見える」と語義が一致せず「見られる」の意味も包含するために、その使い分けを誤ったものと思われる。

3-2-5 条件表現

「と／ば／たら／なら」で表される条件形は、それぞれにいくつかの意味内容があり、それが共通する場合の使い分けが難しく習得の難しい学習項目の一つとされている。韓国語ではすべて「-(으)면」を用いて表すことができることもあって誤用となるケースが多い。今回の調査では9例のうち7例に「ば」を用いた誤りが見られた。

- 1 初雪が降れば会いましょう。첫눈이 오면 만납시다.
- 2 休日になればいつも映画を見るそうです。휴일이 되면 늘 영화를 본다고 해요.
- 3 ライブが終わるとお好み焼きを食べます。라이브가 끝나면 오코노미야키를 먹어요.
- 4 聞いてみれば, 花粉症じゃなく黄砂のためなんだそうです。물어 보니까 꽃가루증이…
- 5 舞台の袖に入ると止血をして… 무대의 끝에 들어가니까 지혈하고…

1, 2は「ば」を用いて仮定条件を表そうとしているが、1は後件に意志性の強い表現とは共起しにくいこと、2は主体の意志による反復的な事実(習慣)を表しにくいことから誤用となっている。3は「と」は反復的な論理的事実や一般的な事実などを表すのに、一回的かつ個別的事実の意志を表そうとしているため不適切となっている。これらはすべて「ば」の使用に制約があることを意識せず、「-(으)면=ば」という等式でとらえたものと考えられる。また、4, 5はともに既定条件であるため「たら」を用いるべきところであり、韓国語でも既定条件の「-(으)니까」という別の語尾を用いるため誤りは一般に起こりにくいと考えられる。しかしここでは、その使い分けが難しい条件形において、仮定条件のみならず既定条件においても代

表とされる「ば」を用いる過剰一般化が起こっている、もしくは、使い分けに自信がない場合には「ば」ですませるという回避のストラテジーが働いているものと推測される。条件形の誤りは2006年1月24日から2007年2月6日まで現れている。

3-2-6 助詞および助詞相当句

助詞は語と語の関係において選択されるものであるが、その多様な関係を表すために複数存在し、それぞれが複数の意味機能を有し、類似した意味機能が複数の助詞に存在することから、適切な助詞を選択するのは一般的には困難な作業であると言える。しかし、韓国語には日本語と同様に多様な意味機能を持つ助詞があり、日本語と類似・一致するものも少なくないため正の転移が起こることも多い。ところが、その類似性ばかりが強調されると相違点に気づきにくくなり、誤用を引き起こすことにつながる。

- 1 年がとっても感覚があるので、… 나이가 들어도 감각이 있어서…
- 2 バスをを乗りながらいいメロディーが浮かんだ。버스를 타면서 좋은 멜로디가 떠올랐다.
- 3 帰国するまでに3時間あるので… 귀국할 때까지 3시간 있어서…
- 4 日本の図書館からは見られない光景なんです。도서관에서는 볼 수 없는 광경이에요.
- 5 先日には今年最初の放送ですよねと言ったんですが、… 며칠 전에는 올해 처음…
- 6 日本に電話でつないで声だけで皆さんに、… 일본에 전화로 연결해서 목소리만으로…
- 7 一番に記憶に残るのは… 제일로 기억에 남는 것은…
- 8 韓国の携帯電話は高品質として有名で… 한국 휴대폰은 고품질로 유명하고…

1から5はすべて初級レベルの基本的で使用頻度も非常に高い助詞であり、中上級レベルになると通常あまり起こらなくなる誤りである。1, 2は韓国語を直訳したと思われる「が(가)」 「を(을)」を用い、3は「까지」一語で「まで」「までに」を、同様に4は「에서」一語で「で」「から」を表すためその使い分けを誤っており、5は韓国語では必須となる時間を表す「(에)」を用いたための誤用が現れている。また6から8はすべて「(으)로」で表されるが、これは他の助詞に比べ大変多様な環境で現れるため、手段・方法、原因・理由、基準、変化、資格などの意味機能の違いによるふさわしい表現の選択において誤りが生じている。母語には1種類しかない語が第二言語に複数存在する場合の語選択の難しさを示す典型例であると同時に、日本語と一致しない場合の助詞選択の際の誤りでもあり、母語の影響を強く受けているものと言えよう。

3-2-7 活用形

いわゆる活用形についての誤りであるが、動詞が数例で、大半は連体形において名詞をナ形容詞として活用させたものである。

- 1 サランヘヨ、その一言に尽きります。그 한마디로 할 수 있어요.
- 2 日本は高い山・低い山が入り乱っていて… 높은 산이나 낮은 산이 섞여 있어서…
- 3 豚=財産が増えていくという意味がこまれています。늘어난다는 의미가 답아 있어요.

- 4 ファンたちは(彼らと) 永遠な 同伴者に思われる… 팬들은 영원한 동반자인 것 같아…
- 5 真実な心を持っている女性が好き。 진실한 마음을 갖고 있는 여자를 좋아해.
- 6 皆さんがよく ご存知な 映画の舞台, … 여러분들이 잘 아시는 영화 무대…
- 7 大型な車を引いて行進するパレードが行われ… 대형차를 끌고 행진하는 행진이…

ル形の動詞はIグループ(五段動詞)かIIグループ(一段動詞)かの区別が難しく、1はIIグループをIグループととらえて活用させたもの、2は辞書形の段階で「*入り乱る」と誤りIグループの活用を適用させたもの、3は「(意味が)こめられて」とすべきところを、辞書形を「こむ」と理解しているためか、その受身形を用いた誤りとなっている。4、5は韓国語では「영원(永遠)하다」「진실(真実)하다」という形容動詞で表すため、名詞ではなくナ形容詞としてその連体形を用いている。6も同様にナ形容詞として活用させているが、これは韓国語では「아시다(知っている)」という動詞の連体形で表されるところを、動詞表現ではなく「ご存知だ」というナ形容詞としてとらえているものと考えられる。7は韓国語でも名詞表現となるものをナ形容詞として活用させており、品詞の区別をすることなく漢字語による連体形は一律にナ形容詞として活用させる傾向がうかがえるが、これは連体形表出に際して「漢字語+な」というパタン形成のストラテジーが働いている可能性も示唆する。漢字語の形容動詞(ナ形容詞)と動詞が形態上同一である韓国語母語話者の場合、ナ形容詞を動詞活用させる誤りが多く見られることはこれまでも報告されているが(田窪1997等)、連体形においてナ形容詞を多用するという誤りを新たに指摘できた。一般にナ形容詞は和語の場合はさほど問題にならないが、漢字語の場合は名詞との境界が曖昧になるため、学習者は品詞分類に関して混乱を起しがちであり、このことが誤用を生じさせていると考えられる。なお、活用の誤りも1年にわたって現れている。

3-3 語彙の誤用の質的分析

語彙に関して、母語の影響と思われる誤りが多かったのは共起表現と類義語である。ここでいう共起表現とは、一文中に見られる統語的な関係のある語と語の組み合わせを意味し、自立語の組み合わせに限定した。例えば「きれいな花が咲く」という文においては「きれいな花」と「花が咲く」が共起表現になる。

3-3-1 共起表現

共起表現に関わる誤用総数75例のうち、名詞と動詞に関わるものが49例と最も多く、形容詞と名詞関係が13例、副詞と動詞関係が7例、名詞と名詞関係が6例あった。また母語の共起表現をそのまま用いたと思われるものが75例のうち54例にのぼった。

〈名詞と動詞〉

- 1 携帯で撮って インターネット に上げました。 핸드폰으로 찍어서 인터넷으로 올렸어요.
- 2 希望のある 未来 を 営む ように寄付をしたい。 희망이 있는 미래 를 영위 하게 기부를…

- 3 結婚可能な年齢を高めるという話題です。결혼할 수 있는 나이를 높인다는 화제예요.
- 4 50組が協議離婚を申し込んだということです。협의 이혼을 신청했다고 해요.
- 5 初雪に重く意味合いを置くんです。첫눈에 중요한 뜻을 두어요.

〈形容詞と名詞／名詞と形容詞〉

- 1 こんな暑い天気を元気に乗り越えて… 이렇게 더운 날씨를 건강하게 이겨내서…
- 2 親密な恋人同士だとおんぶしますね。친밀한 애인 사이라면 업어요.
- 3 とっても寒い風に乾かされたスケトウダラが… 아주 추운 바람에 말려진 명태가…
- 4 ぬいぐるみのさわり心地, やわらかいですよ。인형 촉감 부드러워요.
- 5 とても歌唱力, いいですね。아주 가창력 좋네요.

〈副詞と動詞〉

- 1 以前にも軽くお話ししましたが, … 이전에도 살짝 말씀드렸는데…
- 2 時間が物静かに流れていくんです。시간이 고요하게 흘러가요.
- 3 お客さんがぎっくり座っている姿には… 손님들이 뻑뻑하게 앉아 있는 모습에는…
- 4 1枚ずらりと報告して下さった方がいらっしゃるんです。한 장 짝 보고해 주신분이…
- 5 雪原でクルクル転がってもちょっとはたいたら雪が… 설원에서 대글대글 굴러가도…

〈名詞と名詞〉

- 1 2002年に起こった実在の出来事なんですが, … 2002년에 일어난 실재 일인데…
- 2 1年近い準備過程が要したということです。1년 가까운 준비과정을 요했다고 해요.
- 3 ヒーローな存在なんです。영웅인 전체예요
- 4 日本で不動の人気を獲得した… 일본에서 부동의 인기를 획득한…
- 5 予想以外においしかったです。예상외로 맛있었어요.

共起表現は語の意味と形態的な組み合わせのどちらにも関連し、言語を運用する上で重要な役割を担っている。今回の調査では、最も強い結びつきを示すいわゆる慣用句はなく、「不動の地位」「年齢を引き上げる」など、固定的であるが個々の語の意味から語結合全体の意味が解釈できるものを誤った例が大半であった。これらは基本的な語彙であるが、基本的であればあるほど語義数が多くなり、語義数の多さに伴い共起相手も複雑になるため使い分けが困難となっていることを示している。

特に「*未来を営む」「*離婚を申し込む」「*親密な恋人同士」などの誤りは、日本語と共通する漢字語が存在する場合に韓国語の共起表現をそのまま用いていることがうかがえる。日本語の和語にあたる韓国語の固有語によって表される語彙ならば、その形態上の違いから共起に関し注意を払うであろうが、共通する漢字語であるために母語と同様に組み合わせたと考えられる。また、「*ぎっくり座る」「*ずらりと報告する」「*クルクル転がる」といった擬態語の誤りは、表そうとするニュアンスを幾分伝えてはいるものの本来の語義からは逸脱してしまっている。擬態語の豊富さは日本語の特徴であると言われているが、韓国語にも豊かな擬態

語が存在しており、同様の意味を表す語彙は多数ある。語義の詳細な説明に加え豊富な例を提示することによる正確な理解と表出が望まれる。さらに、「*意味合いを置く」という誤りについてであるが、単に「意味」とすればよいところをあえて「意味合い」という表現にしたための誤りが他にも見られた。これは、日本語の「意味」を表す韓国語に「의미」「뜻」の2つがあるが、この類義語について「意味=의미」, 「의미」よりも語義の多い「뜻」を「意味合い=뜻」と訳し分けるというストラテジーが働いていることを示唆する。また、「*物静かに流れる」という表現は、一般的な「静かに (조용히)」に比べ静寂感をより強く表し洗練性の高い「物静かに (고요하게)」を用いたための誤りと考えられる。パーソナリティという職業の特性上、より自然で豊かな表現を試みようとして母語の共起表現をそのまま日本語に置き換え誤ったものと思われる。

3-3-2 類義語

類義語の誤用 30 例のうち、名詞が 16 例、動詞が 11 例、形容詞が 3 例あり、母語を直訳したと思われるものが、それぞれ 10 例、7 例、2 例あった。

- 1 自分のホームランや打率なんかの希望よりは… 홈런이나 타율 따위의 희망보다는…
- 2 自己管理に徹底した男という役割を演じます。철저한 남자라는 역할을 해요.
- 3 お酒を飲みながら話し合いをしたり… 술을 먹으면서 이야기하거나…
- 4 生まれから亡くなるまで知られています。태어났을 때부터 죽을 때까지 알려져 있어요.
- 5 諦めていたものをもう一回始めてみようかな。포기했던 것들을 다시 한 번…
- 6 休日によく眠ります。휴일에는 잘 잠들어요.
- 7 健康で長寿しますようにってというのが一般的です。건강하고 장수하기를 바란다…
- 8 願い事を書いた帯を下げた雉を放ち… 소원을 쓴 띠를 단 평을 놓아주고…
- 9 (答えが)一番近接した, ちゃんと当てた人に… 가장 근접한, 잘 맞춘 사람에게…
- 10 身軽く立ち上がろうとすると… 가볍게 일어서려고 하면…

一般に第二言語において語彙の産出が難しいのは、母語では1つしかない語が第二言語で複数ある場合、母語にはある語が第二言語に存在しない場合、形態は同じであるが語のもつ意味が異なる場合などが考えられ、類義語の誤りもこれらを要因として生じることがある。また、自分の表現したいことに相当する語が産出できない場合、類義語による「代用」ストラテジーをとることが予測されるが、適切な類義語で代用できない場合にも誤りとなることがある。

日本語と韓国語は語彙体系が類似しているため、学習者は両者が1対1に対応すると思いつむ傾向があり、韓国語での訳語が同じで意味領域も似ている場合にその使い分けが困難となることが多い。上記の例の場合、5は形式名詞の「もの」「こと」が韓国語では「것」一語で表されるためその使い分けを誤っており、6は「寝る」「眠る」に相当する語が「자다」「잠자다」「잠들다」と複数あり、それぞれに語義の重なる部分が多いために選択を誤ったものと考えられる。また、7は「長生きする」がふさわしいが、漢字語で表そうとして日本語にはない「*長

寿する」という動詞表現にした品詞の誤りや、4の「生まれてから／誕生から」とすべきところを「*生まれから」とする品詞の混乱なども見られる。さらに「希望」「役割」「話し合い」は、それぞれ「目標」「役柄」「話」とすべきところであり、語彙そのものの類似性というよりもむしろその文脈における語彙選択の誤り、つまり、共起表現の誤りと見ることもできるであろう。共起表現における誤用と同様に類義語についても、語彙の丁寧な意味・用法の説明にとどまらず豊富な例を提示しながら、名詞と動詞、形容詞と名詞、副詞と動詞など語と語の結びつきに意識が向けられる練習が効果的だと思われる。

4. 結論

本稿は、韓国人ラジオパーソナリティの発話に見られる誤用を1年にわたって収集し、以下の特徴と原因を明らかにした。

- 1) 結果状態の存続を表すテイル形をテアル形とする誤りが目立つ。これは韓国語にテアル形に相当する文法形式が存在しないため、意味的に似ているテオク形を代用することからその区別が曖昧になり両者を訳し分けることが困難なことに起因する。進行相のテイル形にもテアル形を用いた誤りが見られ、表出がより難しいテアル形の過剰使用がうかがえる。
- 2) 対になる自他動詞の使い分けに関する誤りが多い。それぞれの対のどちらが自動詞または他動詞であるかを区別する難しさを示しているが、特に、先行する助詞が自他動詞の使い分けの目安とならない場合や、韓国語で自他同一語となる場合には選択がより困難になる。
- 3) 自動詞の「漢語＋する」を受身形で表す誤りが多く見られる。これは「하다＝する」「되다＝される」と等式化し、韓国語の自動詞の中で動作自体が能動であり되다形で表される動詞にまで、安易に「される」と表現してしまうために起こるものである。母語の影響を非常に強く受けた誤りと見られ、負の転移の可能性が極めて高いと思われる。
- 4) 日本語においては可能表現となりえない無意志動詞や既に可能の意味を含んでいる動詞を可能形にした誤り、および「見られる」を「見える」とする誤りが多い。韓国語の表現をそのまま直訳したものと考えられる。
- 5) 使い分けの難しい条件形について、韓国語では仮定条件をすべて「-(으)면 (ば)」を用いて表せることから「ば」の多用が目立つ。また、「-(으)니까 (たら)」という別の語尾を用いる既定条件にまで「ば」を用いる誤りが見られ、条件形を「ば」で表す過剰一般化が起こっていると考えられる。
- 6) 日本語と韓国語で一致しない助詞選択に関して、韓国語を直訳したと思われる誤りが非常に多く見られ、母語の影響を強く受けている可能性を示している。特に、韓国語では1種類で多用な意味機能をもつ助詞が、日本語では複数の異なる助詞で表される場合に誤りが

多く見られ、語選択の難しさを示すものであり負の転移の可能性を示唆する。

- 7) 連体形において、漢字語の名詞を漢字語のナ形容詞と誤る活用が多く見られる。韓国語では形容動詞（ナ形容詞）で表されることがその原因であるが、和語のナ形容詞と異なり漢字語の場合は名詞との境界が曖昧になり、品詞分類に関して混乱を生じさせていると思われる。
- 8) 日本語と共通する漢字語に関して、韓国語の共起表現をそのまま用いたことによる誤りが多い。形態の異なる固有語と違い漢字語が日韓に共通するため、語と語の組み合わせも同様にとらえているものと思われる。
- 9) 類義語については、韓国語で一語で表される語彙が日本語に複数存在する場合の使い分けの誤りや、品詞の不一致や混乱などを原因とするものが多く見られる。これはその文脈において語彙選択を誤っている、つまり共起表現を誤っていると見ることもできる。

上記の中には母語の影響を受けていると考えられるものが相当数あり、特に文法項目については同じ誤り、もしくは同じ要因によると思われる誤りが引き続き観察されるものも少なくない。第二言語習得の際に表れる誤用の原因は多岐にわたりそれらが複雑に関わっているため、母語の影響かどうかの認定は複数の言語で行われた調査結果を得て慎重に結論付けなければならず、本研究の結果では母語の影響を受けている可能性が高いと示唆するととどめる。

1) から 7) は、いずれも初級後半で主に学習する文法項目に関する誤用であるが、上級レベルに相当するパーソナリティにおいても誤りが出現しているのは、これらが習得の困難な項目であることを意味する。初級レベルで学習した内容であっても、実際に正しく運用できるのは中級以降になることも多く、理解領域と運用領域が一致していないことがわかる。語は、形式と意味と使用という3つの要素から成り立ち、このうちのどれが不十分・不適切であっても誤用となり、形式と意味は正しくても使用を誤ると「知っているが正しく使えない」という理解と運用の不一致をもたらす。

パーソナリティは生放送という限られた時間内に、様々な制約のもとで番組を進行しなければならず、強いストレスを受けながら言語処理を行っているため、通常は十分に理解し正しく使用できる表現であっても誤りを犯しやすい環境にあることは否定できず、録音テープを聞けば容易に自己訂正もできるような誤用もあるかもしれない。また、いわゆる教室場面での学習ではなく、日常生活の場において日本語母語話者との接触により日本語を身につけていく自然習得の環境にいるため、教師から誤りを指摘されて修正するといったこともなく、習得上の癖が顕著に現れているという可能性も残す。

조남성 (2004) は、1980年度から2003年度までに発表された韓国語母語話者による誤用に関する103の先行研究を分析し、それらに多く現れる誤用を一覧化し誤用の共通点を探ろうとしている。その中で、本研究における分析結果と一致するものとして、条件形における「ば」の多用、「続いて／続けて」に代表される対をもつ自他動詞の混同、漢語自動詞を「漢語+さ

れる」と受身表現を用いる誤り、「(으)로(で/に/として)」など1種類で多様な意味機能をもつ助詞が、複数の異なる助詞で表される場合に起こる選択上の誤り、「天气が暑いです」などに見られる韓国語の直訳と思われる誤りなどを挙げることができる。これらは、分析結果と完全に一致するものだけではなく、同じ要因による誤りとみなすことのできる類似したものも含んでおり、韓国語母語話者に多く見られる誤用の傾向や特徴を示しているものと考えることができる。それゆえに、本研究で得られた結果は調査対象としたパーソナリティ特有の誤りではなく、韓国語母語話者に共通する誤用であると結論づける。

5. 日本語教育への提言と今後の課題

近年、国籍の多様な学習者の増加に伴い各国語の教科書と文法解説書を中心とした母語別の教材が開発されている。しかし、それらはダイアログや語彙・文法等、日本語で書かれた内容をそのまま各国語に翻訳しただけであり、日本語との相違・類似点、特に注意を喚起する点を明示するなどの工夫を凝らして作成されているわけではなく、まだ検討の余地がある。まずは、学習者数も多く、日本語と言語構造が非常に似ている韓国語の母語話者に対して、最近盛んに行われている日韓対照言語学研究成果を反映し、習得上の困難を取り払えることを目的とした教材開発が急がれる。それは単に両言語の異同を記述するだけのものではなく、たとえば文法に関してならば、今回の研究で明らかになったような項目ごとに誤用が生じる原因を解明し、その誤用を防ぐための手立てまでが明記された教材が必要となるであろう。柴(1986)は、漢語動詞に関し、能動態を受動態で表す誤用の原因を明らかにした上で、正しい使い分けができる明快かつ実践的な指導法までを提示しており、教授者と学習者の双方に有益な情報を提供している。これに倣うような形で各学習項目が詳細に記述・整理された教材開発が有効ではないかと考える。

これまで第二言語習得研究は文法を中心に行われてきたが、最近、語彙習得に関する研究も始まり、その中には共起表現(連語)に着目した語彙指導の有効性を示したものがある(三好2007)。通常、中級段階から学習すべき語彙が急激に増加するが、個々の語の意味を理解すること自体がそれほど困難を伴うことはあまりないため、共起表現を意識した指導はさほど多く行われてこなかった。しかし、共起表現は語の意味を理解するだけではなく、その語はどのような語と共に使わなければならないかという適切な語の使用に直結するため、いわゆる不自然な表現や語選択の誤りは共起表現に関する知識の欠如から来るものと考えられる。また、共起表現という一つの「かたまり」としてとらえることは、語彙習得のみならず、助詞の選択や自他動詞の使い分けなど文法項目の習得にも役立つ。これは適切な語の使用ができてこそ誤りのない自然で流暢な言語運用が可能となることを意味する。共起表現による語彙指導の効果については三好(2007)に詳しいが、今回の調査で明らかになったように、母語での共起に関する

る知識をそのまま用い、それが負の転移となって誤用を出現させている可能性が高い韓国語母語話者の場合、特に有効性が高いと考える。

具体的な指導法については検討を要するが、語彙学習の際、その語と共起関係にある語を次々と提示、もしくは学習者に考えさせ、その中で韓国語では共起関係が成立するが日本語では成立しないものを列挙、グループ化して、成立しないそれらの語の正しい共起相手は何であるかにまで発展させると、予測される誤用を防ぐことはもちろん、関連表現にまで拡張した正しい語彙の選択・使用の可能性を高めるのではないかと考える。また、黒崎・松下（2009）で述べられているように、より自然で洗練された表現を使えるようになるには受容的な学習にとどまらず、それらの表現が用いられる場面や使用方法を理解し産出できるようにすることが肝要であり、洗練度の高い表現を用いなければ得られない表現効果が実感できるような学習方法や環境を作ることも必要であろう。

本研究では誤用の特徴と原因について言及することができたが、習得過程の解明につながる結論を導き出すまでには至らなかった。番組の内容や構成は大きく変わったものの現在も放送は続いており、引き続き調査を行うことによって現在の習得状況を把握し、習得過程の一端を解明することを今後の課題としたい。また、本研究で得られた結果が母語の影響によるものかどうかを解明するためにも、他の言語の母語話者を対象とした調査も行いたいと考える。

参考文献

- 李翊燮他（2004）『韓国語概説』（梅田博之監修・前田真彦訳）大修館書店
- 李榮（2006）「韓国人学習者における日本語語彙の意味習得—母語と意味的対応のある動詞について—」『2006年度日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会
- 垣田直巳（1983）『英語の誤答分析』大修館書店
- 加藤稔人（2005）「中国語母語話者による日本語の漢字習得—他言語話者との習得過程の違い—」『日本語教育』125号 日本語教育学会
- 金仁炫（2004）『韓・日語の対照研究と日本語教育』語文学社
- 黒崎亜美・松下達彦（2009）「中上級日本語学習者による形容語彙の産出—韓国語母語話者の学習者の場合—」『日本語教育』141号 日本語教育学会
- 国立国語研究所（1997）『日本語と外国語との対照研究 IX 日本語と朝鮮語（下）』くろしお出版
- 迫田久美子（2002）『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- 柴公也（1986）「漢語動詞の態をいかに教えるか—韓国人学生に対して—」『日本語教育』59号 日本語教育学会
- 曹紅筌・仁科喜久子（2006）「中国人学習者の作文誤用例から見る共起表現の習得及び教育への提言—名詞と形容詞及び形容動詞の共起表現について—」『日本語教育』130号 日本語教育学会
- 田窪行則（1987）「誤用分析 1-7」『日本語学』6-4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 明治書院
- 三好裕子（2007）「連語による語彙指導の有効性の検討」『日本語教育』134号 日本語教育学会
- 森田芳夫（1983）『韓国学生の日本語学習に 있어서의 誤用例』誠信女子大学校出版部
- 梁賢俊（2005）「韓国人学習者の漢語系形容動詞の習得に関する研究—中国人学習者との比較を中心に—」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会
- 조남성（2004）「한국어 화자가 잘 틀리는 일본어 오용」『日語日文学研究』51-1 日語日文学会

What Japanese Misused by a Korean Radio Personality Indicates

—Proposal for Teaching Japanese as a Foreign Language—

Yoko IMAI

Abstract

This paper identifies characteristics and causes of errors in talks by the Korean-native personality (moderator) of a radio program, which presents culture and information on Korea, so as to provide a useful proposal for teaching Japanese as a foreign language. Talks were recorded for about one year and errors were picked up from them and examined. This research shows the likelihood that most of grammatical and vocabulary errors probably come under the influence of the speaker's native language. Among grammatical errors, here are examples of frequent misuse: Conditional “-BA”, NA-adjectives which should be nouns respectively, and the passive voice instead of an intransitive verb consisting of a “Chinese-origin word” and subsequent “SURU”. A typical vocabulary error is collocation of a noun and a verb, which seems to be a direct translation from Korean. Based on these findings, the treatise proposes: 1) to develop Korean-native-learner-specific teaching materials, which reflect the results of linguistic studies comparing Japanese and Korean, as a necessity, and 2) to focus on the collocation in order to teach Japanese vocabulary and grammar effectively.

Keywords: error, influence of the speaker's native language, conditional, passive voice, collocation